



横浜市立万騎が原中学校 学校だより

桐の花

令和元年

12月17日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

『今、抱えている困難、これから出会う試練に・・・』

校長 中村 雅一

先日の12月14日、土曜参観を行いました。万騎中「創立プレ60周年」の講演会では、「困難との向き合い方」と題して三井優和さんからお話をいただきました。三井さんは、講演後、校長室で「大勢の生徒の皆さんの前で話したのは初めてで、たいへん緊張しましたが、自分の思いを届けることのできる機会をいただいたことや、たくさんの質問をしてもらってコミュニケーションがとれたこと、感想文もたくさん書いていただいたことなど、生徒の皆さんや先生方、参観していただいた保護者の皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです」と話され、万騎中を後にしました。

さて、三井さんのお話に戻りますが、彼は生まれながらの感音性難聴という聴覚障がいに対し、ずっと劣等感を持ち、周りに知られたくない、隠したいという「暗く辛い、困難な時期」を過ごしていたことを、初めに話されました。言葉が聞き取れないことから人とのコミュニケーションに消極的になり、逃げたい、避けたい気持ちになっていき、考え方もネガティブになっていきました。そんなとき、フリースタイルバスケットボールとの出会いをきっかけに、失敗を経験してもそこから学び、再びチャレンジし少しずつ自信をつけポジティブに物事を考えられるようになっていきました。そして、自分だからこそできること、自分の役割や生きる意味を見つけていったその過程は、たいへん心打たれるお話でした。また、「成功から学んだことは何ですか」という3年生の質問には、「**継続することの大切さです**」とお答えになったことは、あのイチロー選手の引退会見の言葉と重なりました。

イチロー選手の言葉です。「一気に高みに行こうとすると、今の自分の状態とギャップがありすぎて続けられない、と考えているので、地道に進むしかない。進むだけでなく、後退もしながら、あるときは後退しかなし時期もあると思いますが、自分が『やる』と決めたことを信じてやっていく。それが正解とは限らないし、間違ったことを続けてしまうこともあるんですけど、『そうやって遠回りすることでしか、本当の自分に出会えない』という気がしています」と。三井さんもイチロー選手も「**基準は他人と比較して、自分ができる、できないを考えるのではなく、基準は自分の心の中にある**」ことに加え、「**自分の限界をちょっと超えて、それを地道に続ける**」ことが大切さだと、教えてくれているのだと思います。

さらに、三井さんの生き方から学べること。それは、「**困難な状況は、悪い事づくめではない**」ということです。最悪の状況から良いことが生まれる場合もある訳で、「**困難な状況は、明るい面を探る練習をする絶好のチャンス到来**」ということです。この悪い状況を前向きにとらえたとしたらどう考えるか、この最悪な状況において自分で何とかできることってないだろうか、何か一つでもいいことが生まれるとしたらそれは何だろう、と考えてみることで、そんな考え方の「習慣」、くせをつけていくこと。それが、三井さんから学ぶポジティブ思考です。もちろん、自分の心がひどく傷ついたり、頭の中が混乱していたり、落ち込んでいたりする間は、「明るい面を探そう」と呑気なことは言っていられないでしょう。人に相談したり、自分の中で気持ちの整理をしたりすることができるまで十分時間をとることも必要です。

また、もし、我が子や生徒がそのような危機に陥ったときは、親や教師は、目の前の傷ついたり落ち込んだりして、自信をなくしている子どもから話を聴き、そばで支えたり見守っていくことは言うまでもありません。しかし、その上で大事なことはやはり、**我が子・生徒を前向きにすること**です。言い方を換えると「**被害者意識を持たせない**」ことです。自分は障がいがあって不幸だから、テストでいい点が取れなかったから、先生に厳しく叱られたから、監督に試合で使ってもらえなかったから、……。そんな時、親が我が子を不憫(ふびん)に思う、親や教師が子どもの能力を見くびる、子どもの苦しみを見ていられなくなり手を出し過ぎてしまうと、子どもは「自分は被害者なんだ」「どうせ自分は何をやってもダメだ」「困っても親が自分を助けてくれる」「悪いのは自分じゃない、あの人のせいだ」、と被害者意識を強く持ってしまう。そうすると、子どもは自分を哀れ、ネガティブな面ばかりに目が行き、ネガティブ思考から出来事の解釈を誤ってしまいます。例えば、人の親切に対しても「本心からではない」と、疑ってしまいます。

不快なことには静かに冷静に反応し、不当なことには毅然とした態度をとることは大事ですが、完璧な約束された人生はありません。子どもが自分や人の責任にしないで、今、**抱えている困難や、これから出会う試練に真っ向から立ち向かえる自信と生きる力**を私たち大人は子どもに与えたいものです。それが、子どもの「自立の道」ですから。そのためには、どうしたらいいか。ぜひ、関心のある方、「メンタルが強い子どもに育てる13の習慣」エイミー・モーリン著(講談社+α新書)は、お奨めです。

では、今年も皆さん、ありがとうございます。今後もお子様のごことでご相談があれば、遠慮せずご連絡ください。

生命と性の健康教育 講演会

11月28日(木)に昭和大学より上田邦枝先生をお招きして「生命と性の健康教育 講演会」がおこなわれました。学年ごとに講演内容をわけ、1年生、10組は主に生命の誕生について、2年生は去年の復習を得て、SNSなどの性に関する広告に気をつけることを中心にお話いただきました。(3年生は6月に講演を終えました。)胎児の様子や出産時の様子、今自分たちがここにいる確率(両親が出会い、受精し、生まれてくるまで)が250兆分の1と聞き、生徒たちも自分が生きている奇跡を噛みしめていたようでした。



また、性には3つの意識(快楽性・生殖性・連帯性)があることも学習しました。この3つの中で、男女が協力し合う「連帯性」がとても大切であることを学び、今までとは違う「性」のイメージを持てたと思います。この他にも、1年生・10組は赤ちゃん抱っこ体験(3000gの赤ちゃん人形を一人3~5分ほど)を全員が行い、数人が妊婦体験(8kgの重りを付けている)など貴重な体験をすることができ、実り深い学びを得ることができたようです。

最後に、クラスや学年の廊下に掲示できるように、今回学んだことにちなんだ標語や、お話の感想・まとめなどを集約したものを作成しました。

意見・感想(一部抜粋しています)

- ❖赤ちゃんが生まれてくる時の痛みはまだ分からないけど、いつか自分も赤ちゃんを産むかもしれないので、とても勉強になりました。また、私のお母さんに感謝したいと思います。痛い思いをしてまで産んでくれたということがとても嬉しいです。(1年生 女子)
- ❖「性」という字は、心に生きると書いて性と読むことを覚えました。250兆分の1の確率で生まれるということで、生きることの大切さが分かりました。(1年生 男子)
- ❖今回の講演会を聞いて、僕たちが産まれてきたのは奇跡ということを知り親に感謝です。それにみんなが協力しなければならぬと思います。性のことについてはいろいろあることを知り、「いやらしい」とは思わず生きていきたい。(1年生 男子)
- ❖自分が産まれる前の母の生活の大変さがよく理解することができたので、母に感謝の気持ちを伝えたいと思います。また、最近インターネットに関する犯罪も増えているので私たち一人ひとりが防犯の意識をして、日々を過ごしていきたいです。(2年生 女子)
- ❖この前親と揉め事をしてしまって嫌だと思っていたけど、一生懸命産んでくれたのにそういうことをしたのが情けないと感じました。家に帰ったら、感謝をこめて「ありがとう」と言い、親を大切にします。(2年生 男子)
- ❖去年に比べて、もっと性に対する考え方が変わりました。そして身の回りにどれだけ危険が多いのかも分かりました。自分の身は自分で守れるようになりたいと思いました。(2年生 女子)

特別授業

講演「困難との向き合い方」

～三井優和さんをお招きして～

来年の学校創立60周年へ向けて、ここ数年、様々な分野で活躍している方をお招きし、講演をお願いしています。活躍までの過程や生き方をもとに中学生にとって大切なメッセージを発信していただき、万騎中生がこれからの人生をどう歩んでいけばよいのかのヒントを得るための講演会は、毎年、いつまでも心に残る印象的な内容となっています。

今年は、フリースタイルバスケットボールパフォーマー 三井優和さん にご越しいただきました。三井さんは生まれつき音が聞きづらい感音性難聴という障がいをおもちです。中学時代にフリースタイルバスケットボールに出会い、大学生以降、パフォーマンスのコンテストなどで優勝。現在はパフォーマンスやワークショップを行う団体を立ち上げ活躍しています。

お話は、ご自分の障がいを隠したかった学生の頃のことから始まり、フリースタイルバスケットボールに出会い、周りから認められ自信がついたことや、障がいがあるからこそ障がいをもっている人を身近に感じられると考え、パフォーマンスの団体を立ち上げて特別支援学校などをまわっていることなどを、生徒にわかりやすい言葉で語ってくれました。ネガティブだった三井さんがフリースタイルバスケットボールによりポジティブに転換していく様が手に取るようにわかり、プラスの発想の大切さが伝わってきました。

講演のあと、三井さんにはパフォーマンスを披露していただきました。バスケットボールを巧みに操る姿に生徒たちも喜んでいました。また生徒からの質問コーナーでは多種多様な質問が出されましたが、三井さんはひとつひとつ丁寧に答えてくださいました。生徒からの最後の質問で「成功から学んだことは何ですか」と聞かれた三井さんは「継続することの大切さ」とお答えになっていました。生徒一人ひとりがこれからの人生の中でぜひ心に留めておいてほしい言葉で講演会が終わりました。

ベルマークを集めています

万騎が原中学校では「ベルマーク」を集めています。集まったベルマークはボランティア部が整理をし、点数化してします。現在までにおよそ19万点分が貯まっています。

回収箱は職員室前の廊下にありますので、ご協力をお願いいたします。



〇〇●〇〇〇●〇〇〇〇●〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●

学校カウンセラー による相談

12・1月の相談日は

12月6日(金)・13日(金)・20日(金)

1月10日(金)・17日(金)・24日(金)・31日(金)です。

相談の予約等は、本校職員または相談室直通電話(391-5891)まで。

●〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇〇〇●〇〇〇〇●〇〇〇●〇〇

12月・1月の予定をお知らせします

※予定ですので、変更になる場合もあります。

12月			1月		
1	日		1	水	元日
2	月		2	木	
3	火		3	金	
4	水	保護者面談	4	土	
5	木	保護者面談	5	日	
6	金	保護者面談	6	月	
7	土		7	火	
8	日		8	水	
9	月	保護者面談	9	木	防災教室
10	火	保護者面談	10	金	
11	水		11	土	
12	木	生徒会役員選挙 演説会・投票	12	日	
13	金		13	月	成人の日
14	土	土曜参観 講演会	14	火	
15	日		15	水	
16	月		16	木	
17	火		17	金	
18	水		18	土	
19	木		19	日	
20	金		20	月	
21	土		21	火	個別級合同学芸会
22	日		22	水	2年 職場体験
23	月		23	木	1年 職業講話
24	火	全校集会	24	金	
25	水	14日の振替休業	25	土	
26	木	冬季休業(1/6まで)	26	日	
27	金		27	月	
28	土		28	火	
29	日		29	水	公立高校共通選抜 出願
30	月		30	木	
31	火		31	金	3年 期末テスト
3年期末テスト 1月31日(金) 英語 国語 数学 理科 社会 1・2年 期末テスト 2月12日(水) 技家 音楽 保体 2月13日(木) 理科 国語 社会 2月14日(金) 英語 数学 (G)			《2月の主な予定》 6日(木) 1年 百人一首大会 7日(金) 2年 百人一首大会 20日(木) 1・2年 横浜市学力・学習状況調査 14日(金)～公立高校共通選抜 試験 28日(金) 公立高校共通選抜 発表		

12月29日から1月3日は閉庁期間です。学校への電話はメッセージ対応となりますので、ご了承ください。

来年もどうぞよろしくお願いたします。よいお年を。